



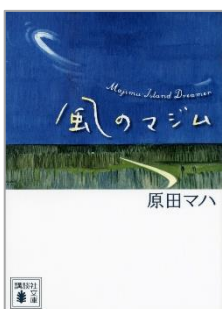
大学生活で新たな経験と冒険を求める皆さんへ、異国のエッセンスを感じられる5冊の作品を紹介します。本と旅、どちらも自分の世界を広げるための鍵を握っています。興味を引くものがありましたら、ぜひ手に取ってみてください。



『ヴルスト!ヴルスト!ヴルスト!』

原宏一
光文社文庫
光文社
913.6||H31

「ヴルスト!ヴルスト!ヴルスト!」は、ソーセージ作りに奮闘する二人の話。主人公がドイツを訪れた際に（「ヴルスト」はドイツ語でソーセージのこと。）、未知の食べ物メットに遭遇するのですが、あなたは食べられますか？



『風のマジム』

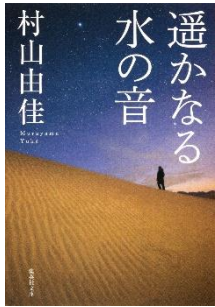
原田マハ
講談社文庫
講談社
913.6||H32

「風のマジム」は、実話に基づく沖縄でのラム酒造りの物語。沖縄の島々の美しさと文化を背景に、情熱で様々な困難を乗り越えていくザ・サクセスストーリーです。こちらはぜひラム酒片手に読んでほしい作品です（未成年除く）。



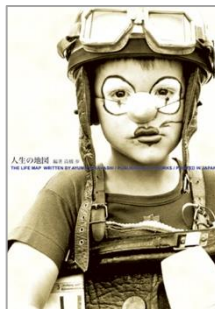
『六月の雪』
乃南アサ
文藝春秋
913.6||N95

「六月の雪」では、台湾を舞台にちょっと切ない物語が綴られます。作中に登場する台南の風景や食べ物など、よく文字だけでここまで五感を表現できるものだと感心します。台湾と日本の歴史にも触れられており、観光地とは違った台湾の一面も見えてきます。



『遥かなる水の音』
村山由佳
集英社文庫
集英社
913.6||Mu62

「遥かなる水の音」は、フランス・スペイン・モロッコを巡る鎮魂の旅。異国の美と人間模様が見事に交錯していきます。個人的にはフランス人のジャン=クロードが、パリジャンらしき全開でたまりません。文章から映像の美しさが伝わってくる作品です。



『人生の地図
= The life map』
高橋歩
A-Works
159||Ta33

最後に、「人生の地図」。作者が会った言葉と写真からなるエッセイには、珠玉の言葉が詰まっています。私が30歳の頃に会った本ですが、突き刺さる言葉がその時々で違うのも面白いです。ちょっと行き詰った時、ぜひ手に取ってほしい一冊です。



旅は外への探検、本は内なる冒険。その先に広がる新しい世界を体験できます。

